

MACCHERONI

# マカロニ

マルチェロ・マストロヤニ  
ジャック・レモン

エットーレ・スコラ監督作品

原案・脚本 ■ エットーレ・スコラ/ルッジェーロ・マッカリ/フリオ・スカルベッリ  
撮影 ■ クラウディオ・ラコーナ 音楽 ■ アルマンド・トロヴァヨーリ 製作 ■ ルイジ&オーレリオ・デ・ラウレンティス/マスフィルム  
1985年/イタリア David・ディ・ナテルロ音楽賞受賞(サウンドトラック盤・イタリアGMM30016)  
1985年/イタリア/1時間46分/カラー/配給=株式会社 シネセゾン

"青春をもうひとつ注文しようよ"  
男たちの友情ってゴッケーだね! ねえ神様。







# MACCHERONI

解説▶「マカロニ」は、現在イタリア映画界で最も脂の乗りきった監督の一人と云われ、今年のカヌ国際映画祭では審査員長を務め、いま世界的にも地位を確立したエットーレ・スコラが'86年に発表し、イタリアは勿論フランス、アメリカ（日本の「イタリア映画祭」においても）で大絶賛を受けた作品である。彼は1964年の監督デビュー以来、数多くのコメディを手がけ、'70年代後半より様々なジャンルに挑みながら、大人の愛や人間関係の機微を描いては注目を浴びてきた。

「マカロニ」は、自分の過去を振りかえり、老後を考えるような初老の年代にさしかかった二人の男の物語である。一人は外国人であり、彼は仕事でナポリに赴任してくる。様々な責任を肩に背負い、富と権力でノイローゼ気味の彼は、偶然40年前の知人に出会う。そして二人の間の「古き友情」が急速に発展し、この間に、アメリカ人は自分のそれとは違う生き方がある事を発見する。

主役のアメリカー人・ロバートと生粋のナポリっ子アントニオを演じるのは、世界の二大スター、ジャック・レモンとマルチェロ・マストロヤンニ。かつてビリー・ワイルダーに「チャップリンとケーリー・グラントとの間」と位置づけられたレモンは、今回初めて名優マストロヤンニと顔を合わせた。この二人の伝説の俳優が、アメリカンコメディとナポリ風ドラマとの二つの原型同志の対決と共生の妙を観せてくれる。共演に「シャドー」「フェノミナ」などのダリア・ニコローディ、「女と路地と陰謀と」のイサ・ダニエリ。

スタッフには、スコラ作品の常連、ルッジェーロ・マッカーリとフリオ・スカルベッリの脚本、撮影はデビュー以来のコンビを組むクラウディオ・ラゴーナが担当している。そして、この映画で'85年のイタリア・ダヴィッド・ディ・ドナテロ賞の音楽賞を受賞したアルマンド・トロヴァヨーリ。彼もスコラの作品のほとんどの音楽を担当してきた。



キャスト  
 ロバート▶ジャック・レモン  
 アントニオ▶マルチェロ・マストロヤンニ  
 ラウラ▶ダリア・ニコローディ  
 カルメーナ▶イサ・ダニエリ  
 女管理人▶マリア・ルイーザ・サンテラ  
 ヴィルジニア▶パトリツィア・サッキ

侍せの一つの教訓(マカロニ)/  
 LE FIGARO 13/2/86

レモンとマストロヤンニの二人のおどけたバイオリンに導かれたこの微笑ましい心理的楽曲。熟年の心のままの平均律フーガは、禁断の木の実の味がする。やや熟しすぎたって(?)では急いで味わってみて下さい。おそろしく元気になりますから。  
 LAVIE FRANCAISE 8/2/86

青いレモンを添えた「マカロニ」は、再び、「パスタ」をそして「スコラ」を注文したくなる一品だ。  
 Le Parisien 14/2/86

それは、金に対する愛の勝利。  
 スコラが我々と分かち合うつもり気持の表われのモラルである。  
 L'EVENEMENT 13/2/86



# マカロニ



あらずじ▶ロバートは航空機メーカーの副社長、仕事はやり手だが口が悪く人の気分を害するような男。彼は仕事でアメリカからナポリへとやってくる。ローマやローマ人に偏見を抱いている彼にとって、ナポリの滞在は嫌なものではない。疲労で落ち込んでいる彼は、妻との離婚訴訟やその他の問題を抱えてすっかり嫌気がさしていた。

だが、今から40年前、アメリカの第五師団のうら若き兵士として彼はここに来た事があった。今、この過去の時間がロバートをナポリの古い知人の元へと導いてゆく。ナポリ生れのアントニオは、

ロバートがアメリカに帰る前に恋していた娘、マリアの兄であった。初め、訪ねてきたアントニオを彼は侮辱的な態度で追い帰してしまう。ふと思ひ直し、アントニオの街を訪ねて行く。奇妙な事にアントニオのまわりの人々が皆、彼の事を知っていて、英雄として迎え入れるのだった。ロバートは啞然とした。自分はいつどんな功績を残したのか!? ナポリ銀行の文書保管部で働きながら、安い劇場のセンチメンタル・メロドラマの作家であるアントニオは、この40年間人々を秘かに欺してきたのだった。

40年ぶりに再会するマリアはすでに孫達に囲まれて俸せそうであった。彼女は手紙のいっばい入った箱をロバートに見せる。それらの手紙は、むこうみずのロバートが世界中のあらゆる所から送った素晴らしい冒険談だった。初めは、妹を慰める為アメリカ人がナポリに戻らぬ理由を説明するつもりで書き始めた手紙。



ところが、アントニオの意に反して読み手の輪は広がってゆき、彼らが皆そうありたいと思う素晴らしい性格の持ち主、ロバート像ができあがってしまった。アントニオの一番の傑作となってしまった。

ロバートは真相を知ると驚き、虚像から逃がれようとする。しかし、アントニオの人物の温かみ、夢、信じる心、友情、彼の変った人生哲学が、ロバートにも解りかけてきていた。自分もアントニオの夢のように勇敢に生きてみたいと考えるようになっていた。アメリカに帰る時が来た時、突然、アントニオの息子とナポリの犯罪組織の間にトラブルが起きる。ロバートは、今こそ、自分は本当の英雄的行為を試みようとするのだった――。

## 8月下旬同時ロードショー

銀座テアトル西友

銀座1丁目(旧テアトル東京跡) ☎03(535)6000

連日|12:30|2:40|4:50|7:00|☎(土)のみ夜9:10

キネカ大森

大森駅東口・西友5階 ☎03(762)6000

連日|12:00|2:20|4:40|7:00|(祝前夜・土)のみ夜9:20

## 9月初旬同時ロードショー

光が丘テアトル西友

都内各プレイガイド、チケット・セゾン、チケットぴあ、セゾン系各劇場場でお求めください。

光が丘パークタウン・光が丘西武3階 ☎03(979)6000

連日|11:00|1:00|3:00|5:00|7:00|(土)のみ夜9:00

三館共通特別鑑賞券1,200円発売中(当日一般1,500円・学生1,300円の処)